

しんらん同人

No.563

7・8
月号

念仏者の人生は
まさには
慚愧と歡喜の交錯

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

カタカナの言葉を使うことがハイカラな時代もありました。

「リビング・キッチン・テレビ・リモコン等」は日常生活に定着しています。最近では「ソーシャルデスタンス・テレワーク」にやっと慣れてきました。さすがに「エビデンス・ダイナミックプライシング・サステナビリティをディレクションする」という言葉を聞いた時にはビックリしました。語り手がどこまで自分の考えを伝えたいのかなとも思いました。

「言葉」は「言の葉」「ことだま・言葉」と言われ、人間の思想や感情を伝え、また理解する音声や文字なので、世界各国の言語があるのは仕方ないこととは思いますが、混在があまりにも広がる本来の意味が薄まったり、間違ったりすることを経験します。

「歎異抄・後序」に、親鸞聖人が「善信（親鸞聖人）が信心も、聖人（法然上人）の御信心もひとつなり」とおっしゃった時の事をお話しされた内容が記述されております。

日本語であっても、考えの背景によつて大きな違いがあります。

日本語の乱れが指摘されておりますが、外国語も取り入れて自分の考えを伝える大切さと難しさを思いながら、これをご縁に、歎異抄を今一度読み返している次第です。

不思議

お念仏を申すということは、私が称えていることには違いないのですが、これは私の行いではなくて、如来さまの行いであるのご覧になったのが親鸞聖人です。だから不思議なのです。

念仏すること、そしてお浄土を目指して生きていくことを当たり前と考えている人には、親鸞聖人の教えは判らないでしょう。

本当のことを言いましたら、お浄土よりもこの世のほうが好きでしょう。いや、あなた方は知りませんよ。この世よりは、お浄土の方が好きで、人の悪口を言うよりは、お念仏申すほうが好きなお方もいらっしゃるでしょう。これは尊いことです。

しかし、ご開山(親鸞聖人)は残念ながら違います。私の心の中には妄念煩惱の誘惑しかない。そしてお浄土よりもこの世に執着している。それが私の姿だとおっしゃるのです。

人間の本音を言うならば、如来さまや仏法よりも煩惱のほうが好きな

梯實圓和上
(かけはしじつえん わじょう)

日本の仏教学者、浄土真宗本願寺派勧学、行信教校名誉校長、浄土真宗教学研究所元所長、本願寺派宗学院講師、大阪教区阿倍野組廣臺寺前住職。2014年往生。



のでしょう。

仏さまの御名を称えるよりは、人の悪口やくだらなことを言っているほうが好きなのが人間の姿であるならば、そんな私の心に念仏申さんと思いつ心が起こり、細々ながらも浄土を慕う心が起きて来たということとは、ただ事ならないことが起きているのです。

そのただ事ならないこと、それを親鸞聖人は「不思議」と言われています。

そういう人間の思い、計らいを超えた大きな力が私を揺り動かして、私を本願を信じ念仏を申すものに育てあげて、浄土に向かうものの方へ向転換してくださる。それが阿弥陀さまの本願力というものの働きなのです。

このお念仏を申すものに育て上げた本願力が、お浄土へ連れて行ってくれるのです。

ですから、「お念仏をしているけれど、救われるかどうかからない」というのは、不義理というものです。仏さまに対して申し訳ないことです。

「私は念仏しているけれど、仏さまが本当に救って下さるか、死んでみないとわからない」というのは、お念仏を自分の行いと思っているからです。

それではお念仏を申す身に育てて下さった如来さまのおはたらきに対して申し訳ないでしょう。

本願を聞く気のない人間を、本願を聞いてよろこぶ人間に育ててくだ

さった、その仏さまの本願力が私をお浄土へ連れて行ってくれるのです。つまり、信心を与えてくださり、念仏を与えてくださった力がお浄土へ連れて行く力なのです。

念仏しているということは、もうすでに仏さまの本願力の躍動する中に入れられているということなのです。

だから、お浄土へ行けるかどうか心配しないでください。

そのようなことを心配することが仏さまに対して申し訳ないことだと、ご開山は味わっていらっしゃいます。

このような世界を親鸞聖人は「他力不思議」という言葉であらわされたのです。

その他力不思議に対して、私が取るべき態度とは何かといいますと、私の計らいを離れて、如来さまの御計らいのままに生きていくことです。

これが如来の他力、本願力に身を委ねている姿です。

身を委ねるといのは、何もしないことではありません。

喉から血が出るほど念仏をしていたとしても、そのお念仏は「私をお念仏を申すものに育てて下さった如来さまの本願力は、なんという大きなはたらきであるか」と仰いでいる念仏なのです。それが真宗の念仏です。

だから、何もしない、教えも聞かない、お念仏も申さない、そのような人間に他力がわかるはずがありません。

お念仏を申すから、そして本願を聴聞するから、そしておいわれを有

難いなどあじわえるから「不思議だな。私の心にこんな心が起きてきた」とよろこべるのです。

「本願力」とは「本願のはたらき」ということです。

「力」は「はたらき」です。「はたらく」「はたらく」とは、どういうことかと言いますと、「力」とは物を動かす働きのことです。

私に力があると言っても見えません。けれど、例えば本をそちらからこちらへ動かしたとします。これは本が勝手に動いたわけではありません。私が動かしたのです。

そうしますと、私によって本が動かされたわけです。つまり、私の力がそこにあった本をここまで動かした。本の状態を変えたのです。その状態を変えたのが「力」なのです。

阿弥陀さまの本願力は、本願に誓った通りに、本願を信じ念仏申す者に育てていくところにあるのです。

本願力とはどこにあるのかと言え、こうして教えを聞きに来ていらっしゃるお姿に、お念仏を申していらっしゃるお姿に、そして教えを聞いてよろこぶお姿に、そこに如来さまの本願力が躍動しているのです。

私を離れて本願力はありません。本が勝手に動いたわけではなくて、私が動かしたのです。これはよくわかるでしょう。動かないものが動いているというのは、動かした力があるのです。それをはつきり確認することは、大切なことです。

ご法座等 のご案内

関東地方にコロナによる自粛令が発令されている期間は
諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動開
催の予定です。
詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

7月

7・11
(日)

■午前十時～

孟蘭盆会法要

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師

7・18
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

7・25
(日)

■午後一時～

定例法座 祥月命日合同法要

【文殊四郎琢磨師

8月

8・8
(日)

■午前十時～

定例法座

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師

8・15
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

8・22
(日)

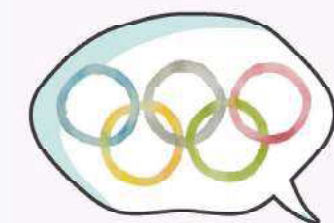
■午後一時～

定例法座 祥月命日合同法要

【上野隆平師

編集後記

今月の法話は、平成十六年 第一〇九回専精舎にお
ける梯實圓和尚の講演からの抜粋を掲載いたしまし
た。梯實圓和尚には前住・岡本泰仁師が行信教校で
ご指導をいただいております。ご存知の方も多くのいら
しやることと思います。



いまだにオリンピック開催の詳細が未決定の中、諸外
国の選手や関係者の入国が始まりました。どちらか
と云えば、長期戦略の立案は苦手な日
本人ですが、目の前の状況の対応力は
優れていると思います。今回は開催自体
への賛否も意見が分かれる等、一致団
結は難しいにしても、何とか対応するこ
とでしょう。いずれにしても、私達は
自己防衛に努めることが大切です。

住職七十五歳 坊守七十一歳は、
無事六月中に二度のワクチン接種を
受け、元気に過ごしています。

